



1月24日～30日は…

全国学校給食週間

1月給食だより 臨時号



全国学校給食週間が始まります！

全国学校給食週間は、学校給食の意義や役割などについて多くの方から知られ、学校給食の充実と発展を図ることを目的として定められました。



世界が注目

ここがすごいよ！

ニッポンの給食！！



★日本の学校給食が、海外から高く評価されるポイントとは？

明治22年

山形県の小学校で、お弁当を持ってこれない子どもたちに塩むすび焼き鮭・漬物の昼食を出したのが給食の始まりです。その後、給食は子どもたちにとって良い取り組みだと認められ、全国へと広まりました。

戦後

戦後も食料不足が続いたため、学校給食が本格的に始まりました。この当時、日本には食べ物も少なく、外国の助けを受け小麦粉や脱脂粉乳などの物資を支援してもらい昭和21年12月24日に再開されましたが、冬休みに重ならない昭和25年1月24日～「全国学校給食週間」と定められました。

現在

ごはんを中心とした和食の献立を基本に、郷土料理や行事食を提供しています。今では、栄養補給だけではなく、栄養バランスや地域の食文化、食べ物への感謝の気持ちなど、さまざまなことを学ぶための「生きた教材」として活用するなど、「食育」の役割も担っています。

◎成長期である子どものために配慮された献立
必要な栄養価が計算され、栄養バランスがとれた献立と、衛生面でも配慮して調理がされているなど質が高い。

◎安定した価格でかつ安全な食材を提供
新鮮な食材を使いながらも、安価でかつ健康的でおいしい給食を提供されています。

◎教育の一環として行われる食の重要性
給食が単なる昼食ではなく、学校教育の一環として、栄養教諭のみならず、全教職員で取り組み、給食時間や教科の中で食育を行っている。

◎子ども自身が給食に関わり、思いやりや社会性を育む
準備から後片付けまで子どもたちが自ら行うことで、他人への思いやりや社会性が育ち、衛生面や食物アレルギーへの理解なども自然に身につきます。

日本の学校給食は、1889年に小学校で貧しい家庭の児童への救済事業として始まり、その後、戦時中には一時中断したが、児童の栄養失調を救おうとユニセフによる支援で再開され、1945年に「学校給食法」という法律が制定され、全国に普及されました。2005年には「食育基本法」が新たに制定され、この法律では、学校全体で地域と連携して食育に取り組むことが記され、今では、単に栄養をとるだけではなく、食事のマナーや食材・栄養への知識、食文化などを学ぶ教育の一環として位置付けられていることが、海外から高く評価されているのだと思います。

当センターでは、給食週間に地元の食材を使ったメニューを5日間にわたり取り入れています。是非、この機会に学校給食の取り組みをご家庭でも話題にしたいと思っています。

学校給食の7つの目標

学校給食は教育の一環として行われ、7つの目標があります。

健康な体づくり



望ましい食生活のお手本に



たすけ合い協力して楽しく食べる



自然の恵みに感謝する



働く人たちに感謝して食べる



地域の食を知り未来に伝える



食を通して社会のしくみを知る

